

行橋教会が創立50周年を祝う



行橋小教区（主任ミカエル山元眞神父・信者数780名）は、11月27日（日）、福岡教区長、松永久次郎司教を含め11名の司祭の共同司式のもと、小教区創立五十周年感謝ミサ・記念式典を行った。

記念式典には所属信者はもちろん、近隣教会の人々、スカウト、幼稚園関係や一般の人々、フィリピンの青年たちや遠く県外の人々、また駐日ポリビア大使家族や行橋市長もかけつけた。900人を越える人が共に集い祝った。

行橋教会が心がけたことは次の5点であった。まず、ひ

とりでも多くの所属信者が出席し共に喜び祝うこと。そのため2年前から名簿整理を始め、全体に数度便りを出して呼びかけた。また「創立五十周年を迎える祈り」をすべてのミサの中で共に祈り、「皆で」という雰囲気づくりを心がけた。二つめは、皆でひとつになってミサを捧げること。そのために野外ミサを行った。11月末で天候や寒さも心配されたが「みんないっしょに」を優先した。三つめは、神様からいただいた恵みを他の方々に分かち合うことであった。

ひとつの証しとして、献金をすべてポリビアとフィリピン・ミンダナオ（イスラム難民の子どもたちを含め）の兄弟姉妹へ贈ることを決めた。四つめは、キリストの名の下に集うものとして「上・下」をなくすことである。五つめは、手作りの温かい喜びのミサ式典と祝賀会にすること。

予算はミサ毎の「五十周年献金」で集めた。匿名の方々

の多額の寄付もあり、はるかに上回るお金が集まった。料理は持ち寄りとした。

前日、晴天の下で会場準備を終えたが、その後雷雨と暴風。雨は降り続き、翌朝は雷が鳴り響き稲光まで。ところがミサ前、太陽が顔を出しすばらしい天気となり、園庭に砂を入れ、椅子も乾き、最高の天気になった。正午から始まったミサ・式典では参加者の感謝の祈りと喜びの歌はが空に吸いこまれ天に届くようであった。祝賀会では、テーブルの上に並びきれない手作り料理が用意されその後餅つきも行われた。

神様は本当に必要なものは必ず、しかも思いもよらない方法で与えてくださること、そして神様は愛そのものである、人々がどれほど愛されているかということをあらためて実感させられた記念式典であった。ミサではこれまでの多くの恵みを感謝し、これからの新たな一歩一歩を神様が導いてくださるよう祈った。

行橋教会は50周年を記念するために今年聖堂を改装した。スペイン在住のアーティスト

九十九伸氏によるステンドグラス・絵画と壁画（すべてボランティア）、それと寄贈された長椅子が訪れる人を守っている。

鹿児島教区にパウロ郡山健次郎新司教

12月3日教皇はパウロ郡山健次郎神父（63歳）を司教に任命すると発表した。司教叙階式は1月29日（日）ザビエル教会（鹿児島教区司教座聖堂）の予定。郡山司教は鹿児島県大島郡龍郷町瀬留生まれ。教区の青少年担当、CLCやME担当、書記長などを歴任。

仙台教区にマルチノ平賀徹夫新司教

教皇は、12月10日に空位が続いていた仙台教区にマルチノ平賀徹夫神父（60歳）を司教として任命。司教叙階式は3月4日の予定。平賀司教は岩手県花巻市出身。

教区事務教区長、カトリック新聞社編集長、司教総代理を兼歴し、司教に被撰されるまで教区管理者を務めた。